

学校名	新山小学校		
ホームページURL <a href="http://www.ina-ngn.ed.jp/~neuyama/">http://www.ina-ngn.ed.jp/~neuyama/</a>	児童・生徒数	4 名	
(1) テーマ コンピュータとインターネットを利用した 海外との交流学习。  テーマの分類 ( -ア ) 下記の欄外記載事項を参照してください。	(2) 活動の単位に をつけてください 学級・同一学年・3～4年 5～6年・学校・ その他 ( ) 該当学年 6年 (回答可能な場合)		
(3) 活動のねらい ・故郷のあり様を背景としてコンピュータを使って表現活動をしてきた子どもたちに、コミュニケーションの道具としてのコンピュータの使い方を体験させ、相手と相手の持つ文化に触れることで自分と自分の住む故郷を再認識させる。			
(4) 活動の実際 (活動内容、学習方法、学習形態、学習環境等) ・お互いの国の民話の挿し絵を描くことを題材とする。(相手の国の民話に関する資料を調べて挿し絵を描く) ・絵を描くことに関する質問、感想等を交換することによる交流。(相手の感じ方、考え方への理解) ・ホームページの共同製作による仲間としての交流。(電子メール、掲示板) 時数 ( 2 9 )			
(5) 指導体制 (校内体制、地域人材の活用、安全面での配慮等) ・主に担任が指導。 ・翻訳、連絡、民話提供など協力 A氏と友人 ・竹とんぼ作り (プレゼント用) を地域の方に講師になっていただいで作った。			
(6) 指導上の留意点 (時間数の取り扱い、各教科との連携、家庭・地域との連携等) ・時間数は、ゆとりの時間学級・国語・図工・音楽などと連携して行った。 ・新山の先生から竹トンボ作りを習う。 ・創作民話の舞台に実在の場所を選び、言い伝えなども含めた。			
(7) 評価 (基本的な考え方、評価の内容及び方法、評価の実際) ・故郷の有様を背景としてコンピュータを使った表現活動ができたか。 ・コミュニケーションの道具としてのコンピュータの使い方を理解したか。 ・調べたり尋ねたりして、相手と相手の持つ文化に触れることで自分と自分の住む故郷を再認識できたか。			
(8) 成果と課題 ・日本ではアメリカについて図書館で簡単に調べることができたが、アメリカでは想像して書いたことが多かったことから、日本に関する資料が少ないことがわかった。日本ではよく知られている河童や竹とんぼを、アメリカの子どもたちが知らなかったことは、大きな発見だった。逆にアメリカ民話の背景にサボテンを思いつけなかったこと、髪の毛が皆黒かったこと、カウボーイの服装等指摘や質問によって初めて知ったこともあった。 ・アメリカの子どもたちの絵も、自分たちと同じような絵だったこと、ビデオの画面からいたずらっぽくピースしていたアメリカの子どもたち、交流を通して親しみを感じることができた。 ・あれこれ調べ工夫して、要素や構図を工夫して絵を描くことができ、「とってもすてきに描けているよ」「みんな絵が上手ね」「コンピュータがちゃんと使えるんだね」等ほめられ、自分たちに誇りを持つことができた。 ・自分たちとアメリカの子どもたちの違いや共通点に触れ、伝えるために自分たちのことや地域について調べ、より深い認識が生まれた。			